

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月22日

事業所名 特定非営利活動法人子ども館ゆめのたまご

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	保育を月令、年令別にわける	急に未満児増えた為、様々な工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	○			常に定数より多くいる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		必要に応じて対応している。	保護者に伝わらない事もあるので、周知の方法を考える。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		話しあい	会議や必要に応じてその都度、話しあいをもつ。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		来年度は第三者委員を決める。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			研修はかなり行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインを重要視している。家族支援の必要性を強く感じるので、できることをできる範囲で。特に話をきくこと。	相談にのったり、次につながる連携を示したり、必要な支援を行うようにしている。地域支援は日頃の関係を大切にひとつひとつついでいねいにむきあい、イベント等、楽しみを共有。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		変化のあるプログラムを提供	子どもに合わせた戸外活動、イベント等
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を敵宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	○	必ずとはいえない。	毎日行う努力はしている。「何でもノート」「ヒヤリ、ハット」等、共有している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		保護者を通して指示書等やりとりをしている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			多いにあります。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			多いにあります。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			多いにあります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			多いにあります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			必ず行っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		来年度以降、具体的に考えている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		活動を支援する事は多にある。保護者会は様々な意見があつて難しい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたより、イベント、避難訓練、感染症等	まめにおたよりを出しているが、読んでない人がいるので、周知に改善あり。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今回、台風による経験で、より意識が高まる。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		今現在はいないが、必ず行うよう決めている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		まめに行っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		重要にとらえて必ず研修に参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		今迄も現在も該当者はいませんが、その場合、保護者とよく話しあいます。研修には行ってます。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

次年度に向けての改善目標

- 1) 次年度は放デイを休止し、児発に特化する。
- 2) その為に下記の改善を目標とする。
 - ① スペースの問題

保育工夫、改善できるところは改善し、スペースを効率よく使用できるよう環境設定をする。
 - ② 一人一人の保護者との話し合いの場を今迄以上に設ける。
- 3) その他
 - ・ 評価表を改めて見てみると、“周知”の問題が浮かびあがってくる。同じお知らせを配布しても読んでいない人、受けとめ方等あるので、次年度はこの点を工夫する。
 - ・ 利用日によって、部屋が狭く感じられたり、障害のあり方によってもとらえ方が異なるので、より一層の工夫、改善が必要。
 - ・ おおむね好意的に受けとめられていることでも、一人でも不安を抱いていたなら、とり除く努力をする。
 - ・ 評価者のチェック項目の中に理解しがたい事に対して、ていねいな説明が必要。